

## 第19回北海道開発土木研究所講演会を開催しました

企 画 室

平成17年12月7日（水）、「第19回北海道開発土木研究所講演会」が、ウェルシティ札幌厚生年金会館（札幌市）において開催されました。会場には、800名を超える過去最高の来場者を迎え、開土研で取り組まれた調査研究成果3題の講演と、世界自然遺産登録された知床の課題についての特別講演が行われました。

以下に講演会の模様をご紹介します。

受付：聴講来場者は開場の1時間半前から受付周辺に集まり始め、最終的には836名を数えました。予想を上回る来場者に受付も大忙しでしたが、パネル展示コーナーや受付周辺のパンフレットコーナーも多くの来場者でにぎわいました。



受 付 の 様 子



パネル展示コーナー

会場：準備した座席数は850名で来場者とほぼ同じ。まんべんなく席を埋める必要から来場者にも協力をお願いし、立ち見者をほとんど出すことなく進行できました。また、会場内にはサブスクリーンを2台設置して聴講の便宜を図りました。



満 員 の 会 場



司 会

開会挨拶：開会冒頭、齊藤理事長より、来年度からの(独)土木研究所との統合に当たって、積雪寒冷地である北海道開発事業に関する研究開発を推進するという当所の使命に変わりはないこと、さらに今まで以上の研究活動に対する理解、協力をお願いしたいとの挨拶がされました。



齊藤智徳 理事長

内部講師による講演：当研究所からは、農業開発部農業土木研究室中村和正室長より「酪農流域の水質環境とその改善方法」、環境水工部水産土木研究室足立久美子室長より「沿岸域の生物環境と河川水の係わり～石狩湾を例として～」さらに道路部防災雪氷研究室加治屋安彦室長より「雪みちに挑む新技術～安全・快適北の道～」の講演がなされました。



中村和正 農業土木研究室長

特別講演：環境省釧路自然環境事務所星野一昭所長から「知床の課題 ～世界自然遺産登録を受けた取り組み～」と題し、世界自然遺産登録という話題とともに抱える課題などが紹介されました。



星野一昭 環境省釧路自然環境事務所長



足立久美子 水産土木研究室長

この講演会の内容は「北海道開発土木研究所月報講演会特集号」として平成18年3月に発行する予定ですので、詳しくはそちらをご覧ください。



加治屋安彦 防災雪氷研究室長